

開催した講座などの様子をお伝えします

にぎわい交流館 かわら版

電話 0561-75-6650

メール nigiwai@me.ccnw.ne.jp

ウェブサイト <http://shimin-kouryu.net>



市民活動の課題を見える化 WS

6/5 第4回 日進まちづくりゼミに20名参加

にぎわい交流館は6月5日（火）夜に、昨年度にスタートした「日進まちづくりゼミ」の第4回を開催。市民活動をしている人や市職員など20名が参加しました。

日進まちづくりゼミは、地域課題の解決にかかわる人たちが、まちづくりについて共に行動していくための、出会いと学びと対話の場として開催しています。

平成30年度に入って1回目ということで、「市民活動から見えてくる課題の『見える化』」を試みるワークショップを行いました。一人ひとりが市民活動（あるいは仕事、生活）している中で感じている地域の課題、団体運営の課題、連携の課題など、普段感じていることを整理・共有。5つのテーブルに分かれて、各自で付箋紙に書いた「課題」を模造紙に貼りながら、じっくり語り合いました。

今回は課題やモヤモヤを出し合う発散型の対話になりましたが、この中から次回以降のテーマや、今後の協働の糸口が見つかると思います。【裏面へ続く】

どんな課題が見えてきた？

ワークショップに使う模造紙は、それぞれの「課題」に対して「活動分野」や「地域」などを書き込む表形式。どんな課題が出されたか、例を挙げると

- ◆メンバーの減少、世代交代が進まない
 - ◆広報、活動の周知、チラシの設置場所
 - ◆情報を受け取れない、助けを求められない人へのアプローチ
 - ◆活動する時間がない、自分ができることと相手が求めることのギャップ
 - ◆団体同士の縄張り、同じ分野でも市とつながっている団体とそうでない団体がある
- といった感じです。「消防団では、若手が多くて飽和状態のところも、少なくて困っているところもある」という地域間の差についての話もありました。

全体的に、いろいろな活動分野に共通した課題、特定の地域というより市域全体についての課題が多く出てきました。



ワークショップのねらいは



語り合いがひと通り終わったところで、日進まちづくりゼミの実行委員で、このワークショップを構成した谷口功さん（椋山女学園大学人間関係学部 教授）がねらいを解説しました。

「連携する仲間づくりのためには、活動分野や地域の共通項を見つけることが必要。行政との協働も、行政がどの分野・地域でどんな事業をしているか、そこと合致することが前提になる。分野や地域が大きすぎても、小さすぎてもボヤけてしまうので、サイズ感を綿密に考えましょう」

連携・協働するために適切なサイズを探ること。今までにない視点を得られたという参加者も多かったようです。

次回へ向けて

参加者アンケートからは「もっと深く考えたくなるワークでした」「異なる分野で活動している人と話す機会が持てて、有意義でした」といった感想があり、好評でした。

第5回日進まちづくりゼミは、8～9月の平日夜に開催予定です。取り扱うテーマは、参加者有志を交えた打ち合わせで検討しています。20名で共有した「課題」を踏まえ、次回はどんな内容になるのでしょうか。

なお、次回の開催告知は7月20日ごろを予定していますので、ぜひご覧ください。【了】

